指導資料　特別支援教育　第184号

鹿児島県総合教育センター
平成28年４月発行

対象校種　幼稚園　小学校　中学校　高等学校　特別支援学校

知的障害のある児童生徒の国語科における「伝え合う力」を高める指導

様々な学習の基礎である国語科における「伝え合う力」を高めるために，知的障害のある児童生徒に対する指導を行う特別支援学校の小学部，中学部，高等部の目標や内容を踏まえた，「聞く・話す」の指導を中心に紹介する。

１　知的障害のある児童生徒への国語科の指導とは

日常生活の中で，人の話を聞いたり，自分の気持ちや意思を伝えたりすることは，児童生徒が社会生活を送る上で必要な力である。このような力は，国語科の指導と密接に関連し，他教科や様々な学習を支える基本となるものである。

知的障害のある児童生徒にとっては，学習上の特性から実際的・具体的な内容の指導が効果的であるため，生活単元学習や作業学習などの各教科等を合わせた指導を通して国語科の内容を指導する場合がある。

様々な学習の基礎となる国語を理解し，表現する力を育むためには，生活単元学習等と関連付けながら，教科別の指導として系統的に国語科の内容を指導することが必要である。

２　国語科の目標

国語科における目標は，**表１**のとおりである。特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）では，各学部において「日常生活に必要な国語を理解する」こと，「伝え合う力を養い，高めるとともに，場面や状況に応じて適切に活用する能力や態度を育てる」ことが示されており，「伝え合う力」を養うことを重視している。

表１　国語科の目標

小学部	日常生活に必要な国語を理解し，伝え合う力を養うとともに，それらを表現する能力と態度を育てる。
中学部	日常生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを活用する能力と態度を育てる。
高等部	日常生活に必要な国語についての理解を深め，伝え合う力を高めるとともに，それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

３　知的障害のある児童生徒の「伝え合う力」を養い高める指導について

「伝え合う力」とは，人とのコミュニケーションの中で相手の気持ちや意思を理解したり，相手に自分の考えや気持ちを伝えたりすることであり，そこでは，相手を意識することが前提となる。知的障害のある児童生徒は，成功経験が少なく，意欲が十分に育っていないことがあるため，まずは，相手とのやり取りの楽しさを味わわせ，主体的に相手の話を聞いたり，話したりしようとする意欲を育てることが大切である。

また，言葉でやり取りを行う際は，相手の言葉を理解するための聞くことや自分の意思などを伝えるための話すことが必要となってくる。聞くときや話すときには，**表２**，**表３**のようなことが大切であり，**表４**のようなことに留意して指導を行うことが望ましい。

「聞く・話す」の指導を通して，相手を意識したやり取りを豊かにし，「伝え合う力」の育成を図っていくことが大切である。

表２　聞くときに大切なこと

- 音を認識する。
- 単語などを認識する。
- 呼び掛けに反応する。
- 人を意識する。
- 物に興味・関心をもつ。
- 注意を向ける。
- 言葉や事柄を理解する。　など

表３　話すときに大切なこと

- 人を意識する。
- 伝えたいという気持ちがある。
- 語い力がある。
- 伝えたい内容がある。　など

表４　「聞く・話す」の指導上の留意点

○　言語環境を整えること
- 児童生徒が安心して話ができるような人間関係を築くこと。
- 児童生徒が自分の考えたことや気持ちを伝えたいと思えるように，教師がよい聞き手（関わり手）となり，「相手の伝えたい内容が分かった。」，「自分の意思や気持ちが伝わった。」という満足感や成就感を味わうことができるようにすること。
- 正しい言葉で話したり，分かりやすく話したりするなど教師がモデルとなること。
- 児童生徒の意欲を損なわないように配慮しながら，教師が児童生徒の言葉を正しく言い直したり，意味的，文法的に広げて返したりするなどすること。
- 児童生徒のやり取りが相互に深められるように意図的に場を設定すること。

○　理解言語を増やすこと
- 言葉を使用する能力及び語句や文などを理解する能力を伸ばすために，言葉遊びのなぞなぞやことわざ，標語などを取り扱うこと。
- 言葉を聞いて想像する力などを高めるために，絵本の読み聞かせや本の朗読を取り扱うこと。
- 概念を深めるために，実際に物に触れたり，体験したりする活動を取り入れること。
- 概念を深めるために，実態に応じて，話し言葉だけでなく絵カードなどの視覚教材を活用すること。

○　表現する手段を工夫すること
- 発語はあるがどのように伝えたらよいか分からない児童生徒には，話型などのモデルを示すこと。
- 言葉の表出や理解が難しい児童生徒には，サインや絵カード，ＶＯＣＡ，携帯用情報端末などの代替コミュニケーション手段を実態に応じて活用を工夫すること。

４　目標や内容の設定に当たって

授業を行う際は，チェックリスト（**図１**）などで児童生徒の発達の段階や学習の履歴を把握することが大切である。

国語（聞く）

段階	評　価　項　目	１回	２回
6 (5~6歳)	① 指示を聞き取り，団体行動をとる		
	② 読み聞かせの本の内容を想像的にたどろうとする		
	③ 新しい言葉や聞き慣れない言葉を聞くとその意味を尋ねる		
	④ 簡単な童話，放送などで内容のあらましを聞き取りながら楽しむ		
	⑤ しりとり遊び等の言葉遊びをする		

国語（話す）

段階	評　価　項　目	１回	２回
6 (5~6歳)	① 友達と一緒に簡単なせりふのある劇をする		
	② 電話の簡単な取り次ぎをする		
	③ 尋ねられると家や保育所，幼稚園などに行く道順を説明する		
	④ 父母やきょうだいの年齢に興味をもって尋ねる		
	⑤ 自分の発音を自分で気付いてなおす		
	⑥ 幼児語をほとんど使わないで話す		

図１　国語，算数・数学チェックリスト（改訂版）抜粋
鹿児島県総合教育センター作成

また，宮崎[*1)]は，知的障害のある児童生徒への話すこと・聞くことの指導の順序として次の一例（**表５**）を挙げている。

児童生徒の発達の段階などを把握して，実態等に応じるとともに，特別支援学校の学習指導要領に示されている各学部の「聞く・話す」の内容について，系統性を考慮しながら更に指導内容を具体化して指導することが必要である。

表５　話すこと・聞くことの指導の順序

○　基本的な言語獲得の段階
- 　返答や返事ができる。
- 　身体の名称や見慣れた名前が言える。
- 　二語文で話せる。　など

○　言語拡大の段階
- 　親しい者とごく簡単な言葉のやり取りができる。
- 　身近な人に，順序立てて話ができる。　など

○　言語生活の基礎の段階
- 　主語，述語の関係をはっきりさせ相手に分かるように要点をつかんで話すことができる。
- 　相手の言うことをよく聞いて話し合うことができる。　など

○　言語生活への参加の段階
- 　自ら進んで集団に参加し，みんなと一緒に話し合うことができる。　など

５　「聞く・話す」の指導の実践例

次に，知的障害特別支援学校中学部第１学年（実態別学習グループ：５人）の言葉遊びを通した「聞く・話す」の指導の実践例を紹介する。

１　題材
「言葉を考えて発表しよう」　～ 新しい『こんにちワニ』を作ろう！～
２　学習グループの実態
＜聞く＞
- 　簡単な指示を聞いて，行動することができる。
- 　短い話を聞いて，登場人物や簡単なせりふなどを言うことができる。

＜話す＞
- 　５Ｗ１Ｈに沿って詳しく話をすることは難しいが，経験したことを単語や二語文で話すことができる。
- 　簡単な質問に対して，誰が，どうするなどを答えることができる。

＜チェックリスト等＞
- 　チェックリストでは，聞くこと，話すことについては，５～６歳の段階である（**図１**から）。
- 　言語拡充の段階である（**表５**から）。

３　指導に当たって
- 　読み聞かせを丁寧に行って，言葉による情景がイメージしやすいようにする（理解言語）。
- 　発表の場面を多く設定し，発表後は，大いに称賛して達成感を味わわせる（言語環境）。
- 　友達の発表を聞いた際には，感想を言う場面を意図的に設定する（言語環境）。

４　目標
○　自分で考えた言葉を発表することができる。
○　友達の発表を聞いて，簡単な感想を言うことができる。
５　指導の実際（４／４）

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 ５分	１　前時の学習を振り返る。 ２　本時のめあて確認する。 いろいろな言葉を考えてあたらしい『こんにちワニを作ろう！ ３　学習の流れを確認する。	・　ファイルを見せるなどして前時の学習内容について思い出しやすいようにする。 ・　学習の内容や流れを分かりやすく説明したり，全員でめあてを読んだりすることで，見通しをもたせるとともに，本時の学習への関心を高めることができるようにする。
展開 35分	**４　「こんにちワニ」の読み聞かせを聞く。** **５　言葉を考えて発表する。** 例） おはよう→おはヨーグルト ごめんなさい→ ごめんなさいふ おめでとう→ おめでとうもろこし **６　友達の発表を聞いて，感想を述べる。** ７　発表した言葉を使い，新しい『こんにちワニ』を作って読む。	**・　読み聞かせ後に，黒板に「こんにちワニ」の絵を貼り，場面の言葉（短冊カード）と一緒に提示することで話を思い出しやすいようにする。** **・　黒板に短冊カード（おはよう，ごめんなさいおめでとう，・・など）を貼り，語尾に続く言葉を考えやすいようする。** **・　言葉が出てこない場合は，最初だけ教師が例を示してイメージしやすようにする。** **・　発表後は，生徒が「言えた。」と満足感を味わえるように，大いに称賛する。** **・　生徒が言い間違ったときには，自然な形で正しく言い直して返す。** ・　生徒が考えて発表した言葉は，ホワイトボードに全て書き，できるだけ多くの言葉を引き出すことができるようにする。 **・　自分なりの言葉で感想を述べさせるとともに必要に応じて教師が生徒の言葉を広げて返す。** ・　リズムや動きを付けたりしながら，楽しい雰囲気で読むことができるようにする。
終末 ５分	８　本時と題材のまとめを行う。	・　いろいろな言葉を考えて発表したことなどを称賛し達成感を味わわせる。

６　生徒の様子
題材終了後も，休み時間などに自分で考えた言葉を教師や友達と言い合って楽しんだり，作成した『こんにちワニ』の絵本を自ら家族に読んで聞かせたりすることがあった。

※太字は，「聞く・話す」に重点を置いた学習活動と指導上の留意点

国語科で育成する「伝え合う力」は，「聞く・話す」の指導で培った力を基に，「読む」，「書く」の指導によって，より豊かなものになっていくと考える。国語科の指導で培った「伝え合う力」を生活の中で活用できることが大切である。他教科，領域の指導と関連付けながら，日常生活の中でも生活に必要な言葉を増やし，人と言葉でやり取りすることの楽しさを味わわせて意欲を高めながら「伝え合う力」を活用できるよう指導することが望まれる。

－引用・参考文献－

1)　宮崎直男編『特別支援教育の授業ヒント集・２　知的障害教育　国語（音声言語）編』平成21年，明治図書
○　文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』平成21年，教育出版
○　文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）』平成21年，海文堂出版
○　是枝喜代治編『「伝え合う力」を伸ばす国語』平成23年，明治図書
○　全国特別支援学級設置学校長協会，全国特別支援学校知的障害教育校長会編『障害のある子どものための国語（聞くこと・話すこと）』平成25年，東洋館出版

（特別支援教育研修課）